

**オムロン株式会社 2021年度3Q決算
投資家様向けウェブ・電話説明会 質疑応答（サマリー）**

（2022年1月28日）

<全社業績、経営・戦略>

Q：3Q期間(10-12月)の業績は社内計画からどれくらい下振れたか？

A：社内見通しに対して、売上は約100億円、営業利益は約30億円の減少となった。

Q：通期見通しを修正した理由は、サプライチェーンの影響が全てという理解でよいか？

A：その理解でよい。受注は好調で部材があればもっと売上を伸ばせるとみているが、
サプライチェーン影響を楽観視しておらず、今後もこの状況は長引くと見ている。

Q：物流・部材調達問題について、どのような打ち手を実行しているか？

A：物流では、国際輸送において、全社で集約・効率化を進めている。

部材調達は、特に制御機器事業において商品点数が多岐にわたることもあり影響を受けていることから、
部品の集約などを実行していく必要がある。物流・部材調達問題は短期では解決しないとみており、
中長期視点でレジリエンスを高めていく。

<制御機器事業 関連>

Q：前回の決算発表では、設計変更によって部材不足に対応できると言及していたが、その後どのような変化があったか？

A：需要は引き続き好調だが、入手できると考えていた部品の納期遅延が次々と発生した。

この状況はしばらく継続するとみており、必要な部材確保に努めている。

Q：サプライチェーン影響もあり、市場シェアを奪われていないか？

A：サプライチェーン問題には、正直苦勞している。

一方、中国においてはこのような状況下でもシェアを伸ばしていると認識している。

<ヘルスケア事業 関連>

Q：サプライチェーン影響もあり、営業利益率が低下しているが、今後もこの水準が続くとみているか？

A：航空便活用増加によるマイナス影響が大きい。停滞している海上輸送が流れ出せば、一気に回復すると見ている。